

潮来市の誇れる自然 第96回

北浦で魚類相モニタリング調査を実施！

北浦のそばにある茨城大学水圏環境フィールドステーションでは、今夏も湖沼の環境問題を体験的に学ぶ公開臨湖実習5コースが開講され、全国の多くの大学生が参加してくれています。実習の合間には、北浦で5年に一度の魚類相調査も行われていました。この調査は環境省の「モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）」と連携しており、絶滅危惧種や外来種の生息状況などから生物多様性の概況やその変化を捉えることを目的としています。

北浦では茨城大学の教員・学生による調査と他機関による調査のデータに基づいて、1960年代以降の魚類相の変遷が把握されています（図1）。例えば1970年代には常陸川水門（利根川河口域と霞ヶ浦の境界付近の水門）の開鎖によって海水魚・汽水魚の種類数が減少しました。年代間で淡水魚の種類数に大きな違いはないのですが、1960年代から2010年代にかけて絶滅危惧種9種の消失、国内・国外外来種の増加など種構成の変化が起きました。今回は2010年代と同様に複数の絶滅危惧種や国内・国外外来種が確認され（写真1〜3）、劇的な変化はないものの、温暖化影響のためか一部の魚種が減少傾向にあるようでした。まだ分析中ですので詳細は別の機会に…。

ネイチャーポジティブの目標のもとで湖沼の自然資本と生態系を将来世代につないでいくためには、現場で現況を把握しその変化を早期に探知し、未来を予測するモニタリングが大切です。魚類については今後とも地道にモニタリングしていきますので、ご協力のほどをお願いいたします。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション

加納光樹・金子誠也・加藤樹音・加藤卓太

丸山啓太

日本国際湿地保全連合
茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所
小熊進之介



写真1 絶滅危惧種キンブナ



写真2 琵琶湖原産のワタカ



写真3 中国原産のダントウボウ

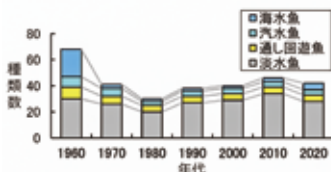


図1 北浦で記録された魚類の種類数の変化

地域おこし協力隊通信

第86回



丸上 理絵さん
(まるがみ りえ)

プロフィール

出身地:

北海道札幌市

趣味:

ペットの世話
・犬:エンジェル
・猫:パンプキン

潮来市高大連携事業を通じた持続可能なコミュニティの形成に向けて

はじめまして。2026年4月に潮来市地域おこし協力隊に着任しました丸上理絵です。大学卒業までは北海道札幌市に住み、就職後は大阪、千葉、東京などを経て、この度潮来市へ移住しました。幼少期から、スキーや海遊びなど自然に親しんで育ちました。アメリカ合衆国へ訪れた際に目にした水辺の豊かな暮らし方に憧れを抱いたことが、「水辺の街」である潮来市を選んだきっかけです。

潮来市での生活も6カ月目を迎え、犬の散歩中や老人ホームでのボランティア、潮来市社会福祉協議会の活動への参加などを通じて、地域の方々との交流の機会が少しずつ増えてきました。

地域おこし協力隊としての担当事業は「潮来市高大連携事業」です。潮来高校生が大学生との協働学習を通じて大学の学びを体験し、まちづくりに参画する機会の運営に携わっています。今年度で7年目を迎えるこの事業は、潮来市が高校と大学の間に入ることで、若者の柔軟なアイデアを潮来市の魅力づくりに直接活かせる、非常にやりがいのある仕事だと実感しています。

今年度は「#潮来推し」が考えるまちづくりを大テーマに掲げ、高校生と大学生の混成チーム(計8班)で取り組んでいます。7月の事前学習を経て、9月には3日間のワークショップを開催し、高校生がまちづくりのアイデア作成に挑みます。本事業を通して、高校生と大学生が潮来の魅力を再発見し、一人でも多くの方に「潮来市に住みたい」と思っていただけのような機会にしたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。